

年報 2011 の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

はじめに、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で被災された方々、原発事故で苦しみに遭われている方々に、心からお見舞い申し上げます。

平成 22 年度は、当館にとって開館以来最大の激動の年でした。

平成 22 年 9 月に開館以来当館の発展に尽力された藤本強館長が、旅行先のドイツで急逝されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。後任として 23 年 4 月から私が館長を務めることとなりました。藤本館長同様、ご支援よろしくお願い申し上げます。

また、今般の東日本大震災では、幸い館内での人的被害はなかったものの、収蔵庫と野外復元施設の多くに被害があり、4 月 30 日まで臨時休館せざるを得ませんでした。なお、関係者の皆様のご支援により 5 月 1 日より、被害箇所を除いて再開館することができました。

こうした中で 22 年度の入館者数は、開館以来初めて 3 万人を下回ってしまいましたが、それでも 28,231 名もの方々にご利用いただきました。当館をご利用、ご支援いただきました皆様方に、厚く御礼申し上げます。

平成 22 年度は、季節ごとの「まつり」イベントや様々なモノづくりを体験する「実技講座」、「文化財に関する研修」など数多く実施し、多くの方々に学び、楽しんでいただきました。

また、「企画展」を 4 回実施しました。このうち、6 月から 8 月に県内の 5 つの文化施設と連携して県内外の縄文時代の出土資料などを展示した「ふくしま森林文化企画展」、9 月から 11 月に県内外の大学や市町村等の協力を得て、県内で出土した土偶約 280 点を一堂に会した「ふくしま里帰り展 ふくしまの土偶」、1 月から 2 月に当館収蔵の「ふくしまの重要文化財展Ⅷ 関和久官衙遺跡」を実施しました。森林文化企画展では、野外の森林を活用して古代の小径を整備しました。また、ふくしまの土偶展では図録を制作し、予定販売部数を完売するなど好評を博しました。

館外においては、体験学習を主体とした「おでかけまほろん」や、磐梯町での「法正尻遺跡」移動展、県立博物館での「ふくしまの土偶」移動展などを実施、県内各地での利用が前年度を大きく上回る実績となりました。

当館は、平成 13 年 7 月に開館し、23 年度は 10 周年となります。今般の未曾有の災害を克服するには多くの課題がありますが、文化財の活用などの活動を通じ、復興の一助となりますよう今後とも元気を発信してまいりたいと考えております。



まほろん入館者 30 万人達成（平成 22 年 4 月 25 日）



ありし日の藤本強元館長（平成 22 年 4 月 24 日 第 1 回館長講演会）

目 次

第1章 まほろんの概要……………	1
1 まほろんの業務……………	1
2 まほろんの沿革……………	1
3 平成22年度の主な行事……………	2
4 東日本大震災による休館等……………	2
第2章 平成22年度の組織と予算……………	3
1 組織……………	3
2 予算……………	3
第3章 管理業務の実施及び利用状況……………	4
1 利用状況……………	4
1. 利用者数……………	4
2. 利用者の内訳と傾向……………	5
2 維持管理に関する業務……………	6
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務……………	6
2. 施設・設備等の修繕状況……………	6
3. 備品・物品管理業務……………	6
3 文化財の収蔵・保管に関する業務……………	7
1. 収蔵資料……………	7
2. 資料貸し出し……………	7
3. 写真掲載等承認……………	7
4. 資料閲覧……………	8
4 文化財の活用に関する業務……………	9
1. 常設展示……………	9
2. 企画展示……………	11
3. 講演会・講習会……………	16
4. 体験学習……………	16
5 文化財に関する情報発信……………	20
1. ホームページによる情報発信……………	20
2. データベースによる情報提供……………	20
3. まほろん通信の発行……………	20
6 文化財に関する研修……………	21
1. 研修実施の概要……………	21
2. 研修実施状況……………	21
7 文化財に関する調査研究……………	24
1. 復元品製作研究事業……………	24
2. 研究紀要2010の発行……………	25
8 ボランティアの運営……………	25
1. 募集……………	25
2. 登録……………	25

3. 活動内容……………	26
4. 受け入れ体制……………	26
9 その他……………	26
1. 年報2010の発行……………	26
2. 運営協議会の開催……………	26
3. 緊急雇用創出基金事業……………	26
第4章 まほろん施設の概要……………	27
第5章 まほろんの条例・規則……………	29
1 福島県文化財センター白河館条例……………	29
2 福島県文化財センター白河館条例施行規則……………	29
まほろんの利用案内……………	30

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成23年7月には開館10周年を迎える。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真や図面などの資料を収蔵・管理し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで（財）福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興事業団が管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財の講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは、全国に先駆けて設立された県単位の埋蔵文化財収蔵保管施設であり、またこの貴重な文化財を様々な形で活用する施設でもある。「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」を

メインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人に

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人に

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

3 平成 22 年度の主な行事

平成 22 年 3 月 13 日～5 月 16 日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記 卷之八 宇多郡」

平成 22 年 5 月 1 日～5 月 5 日

ゴールデンウィークまほろんまつり

平成 22 年 6 月 19 日～8 月 17 日

国重要文化財指定 1 周年記念「法正尻遺跡」移動展（磐梯町恵日寺資料館）

平成 22 年 6 月 26 日～8 月 29 日

県内文化施設 5 館連携事業「ふくしま森林文化企画展」

平成 22 年 8 月 1 日 まほろん夏まつり

平成 22 年 9 月 25 日～11 月 28 日

ふくしま里帰り展「ふくしまの土偶」

平成 22 年 12 月 5 日 まほろん餅つき大会

平成 22 年 12 月 7 日～平成 23 年 1 月 30 日

ふくしま里帰り展「ふくしまの土偶」移動展（会津若松市・福島県立博物館）

平成 23 年 2 月 20 日 まほろん冬まつり

＊平成 23 年 3 月 12 日～5 月 15 日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記 卷之九 安達郡」：開催前日（3 月 11 日）発生 of 東日本大震災の影響により、開催を次年度に延期



まほろん冬まつり

4 東日本大震災による休館等

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、宮城県沖で地震が発生、白河市は震度 6 強を記録した。

この影響で、まほろんは収蔵庫や奈良時代の家などの野外施設が大きな被害を受けた。また、常設展示室の展示物なども被害が発生し、またその後も余震が続いたため、翌日より 4 月 30 日まで臨時休館とした。

この間、休館と知りながらも来館される方々がおられたので、安全や体験メニューなどの対応ができないことを確認の上、入館していただいた。また、浜通りなどから多くの避難者を受け入れていた県南地方の施設に出向き、火おこしや粘土による土器づくりなどの出前講座を実施した。



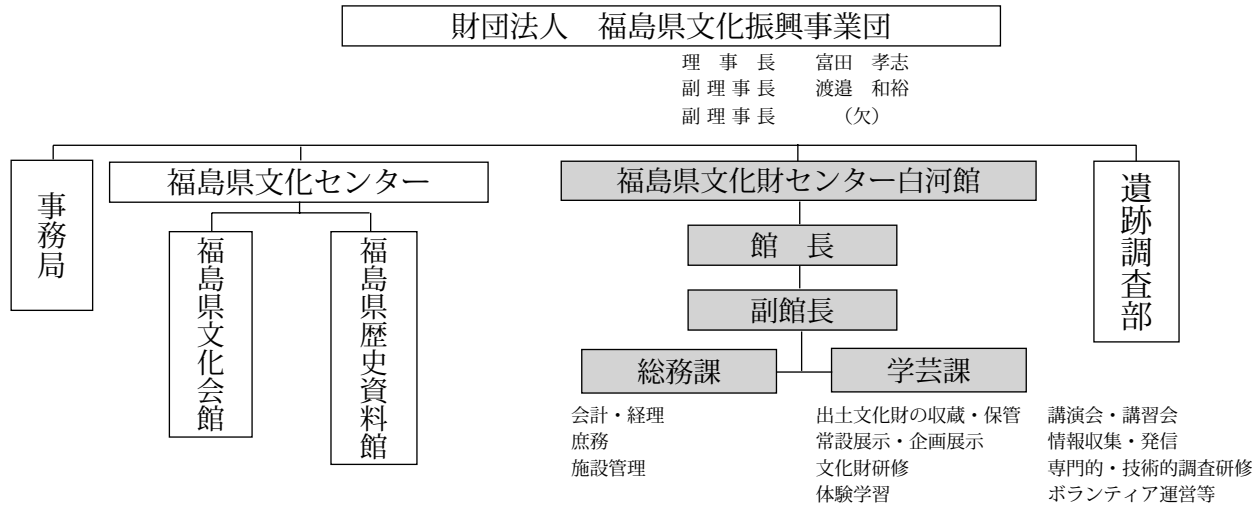
まほろん夏まつり



東日本大震災による被害(平成 23 年 3 月 11 日)

第2章 平成22年度の組織と予算

1 組 織



職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	富 田 孝 志	専門学芸員	菅 原 祥 夫
副 館 長	吉 田 豊 吉	主任学芸員	吉 野 滋 夫
総 務 課	課長（兼務）	主任学芸員	大 山 孝 正
	主 幹	副主任学芸員	丹 治 篤 嘉
	副 主 査	副主任学芸員	稲 村 圭 一
	事務補助員	副主任学芸員	轡 田 克 史
	物品販売補助員	副主任学芸員	山 田 英 明
学 芸 課	課 長	アテンダント	岡 田 百合恵
	副 主 幹	アテンダント	八 島 千 夏
	専門学芸員	アテンダント	岸 波 理 恵
	専門学芸員	アテンダント	沼 田 紗 貴
	専門学芸員	アテンダント	高 山 千 春
	専門学芸員	アテンダント	佐 藤 あかね
職員総数 25名			

※館長 平 22.4.1～平 22.9.10 藤本 強
平 22.9.11～平成 23.3.31 富田 孝志

平成 23 年 3 月 31 日現在

2 予 算

管理運営費会計

<収入>

・指定管理者委託料	233,669,000 円
・雑収入	10,000 円
・合計	233,679,000 円

<支出>

・文化財センター白河館管理運営費	233,679,000 円
・合計	233,679,000 円

物品販売会計

<収入>

・事業収入（物品販売収入）	4,900,000 円
・雑収入	130,000 円
・合計	5,030,000 円

<支出>

・事業費	4,299,000 円
・租税公課費	74,000 円
・合計	4,373,000 円

第3章 管理業務の実施及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成22年度の総利用者数は、35,284名（21年度37,167名）で、その内訳は入館者数が28,231名（21年度31,953名）、館外利用者数が7,053名（21年度5,214名）となり、館外利用者は増加したが、入館者は10%を超す減少となった。

入館者数については、平成23年3月11日発生した東日本大震災の影響で、年間の開館日数が計画より17日少ない293日となったことや、団体客が2,500名余り減少したことなどにより、対前年比で3,722名の減少となった。特に長引く景気低迷の影響を大きく受け、団体客ばかりでなく一般客も含め観光などで訪れる客が減少したものと推測され、6月・10月・11月の観光シーズンに開館以来最少の入館者数を記録した。

このように、全体に入館者数が減少する中、昨年度に引き続き県南地域の小学校や福祉施設への直接訪問、企画展等での当該市町村での広報誌への掲載やチラシの全戸回覧の要請、またイベント開催時の近隣小学校での生徒全員へのチラシ配布など、きめ細かな広報を実施した。

この結果、企画展等では初めて来館された方々が多数あり、また12月の餅つき大会や2月の冬まつりでは、これまでにない多くの入館者があった。

月別入館者数

	平成22年度							平成21年度	
	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者数	館外利用者数	入館者数	館外利用者数
4月	26	113	1,475	5	1,186	2,779	170	2,470	77
5月	26	238	1,186	22	1,930	3,376	32	3,087	167
6月	26	142	961	47	1,432	2,582	1,349	3,731	547
7月	29	212	1,089	21	1,631	2,953	2,405	3,993	1,144
8月	30	304	920	23	1,806	3,053	1,534	3,548	910
9月	26	122	1,227	20	1,476	2,845	151	3,196	106
10月	27	152	838	41	1,843	2,874	60	3,878	1,008
11月	24	113	380	56	1,489	2,038	215	2,595	1,219
12月	22	262	391	4	1,134	1,791	788	1,400	20
1月	23	85	151	20	954	1,210	279	1,147	0
2月	24	188	292	35	1,469	1,984	0	1,324	12
3月	10	32	30	2	682	746	70	1,584	4
合計	293日	1,963人	8,940人	296人	17,032人	28,231人	7,053人	31,953人	5,214人

また、長年の懸案であった南湖公園からの道路案内板を、福島県や白河市の協力を得て4箇所設置した。これにより、わかりにくいという来館者からの苦情はほとんどなくなった。



誘導案内板（南湖東側、国道289号交差点）



誘導案内板（JR研修センター脇、市道交差点）

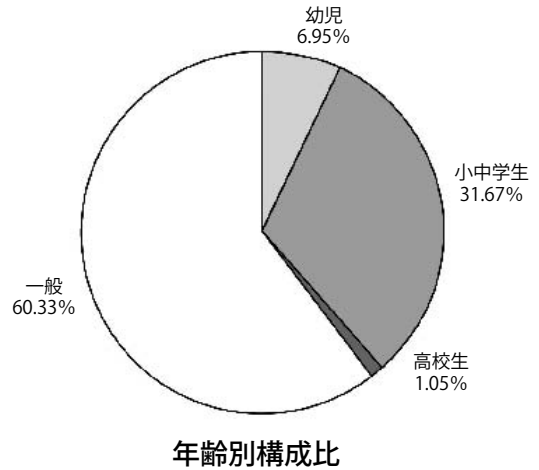
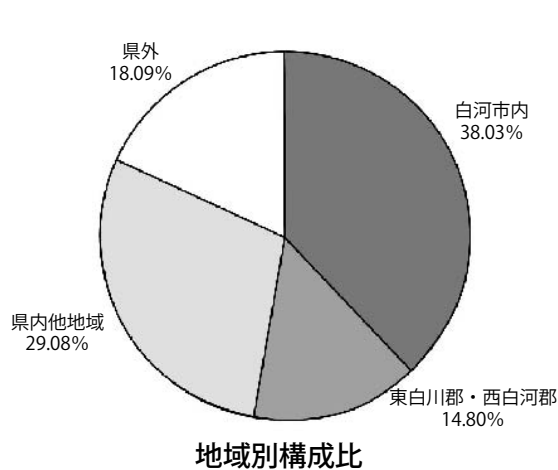
次に館外利用については、おでかけまほろんが前年度より3校多い27校で実施、また6月から磐梯町で実施した「法正尻遺跡の移動展」や12月から県立博物館で実施した「ふくしまの土偶の移動展」などにおいて多くの利用をいただいたことから、前年度より1,839名増加

した。

2. 利用者の内訳と傾向

(1) 地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が82%(うち、白河市38%)、県外が18%であり、前年度と



団体利用状況

団 体			平成 22 年度													平成 21 年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数			1	1	1		1						4	5
		入館者数			58	23	35		52						168	227
	小学校	学校数	16	12	18	9		11	9	2	1	1	1		80	78
		入館者数	917	574	769	652		870	646	78	32	30	28		4,596	4,635
	中学校	学校数	3	1		1	1	6	3	5	1				21	19
		入館者数	299	56		4	59	121	59	93	20				711	746
	高等学校	学校数			1	1		1	1	1		1	1		7	5
		入館者数			32	12		9	33	41		3	14		144	188
	養護学校	学校数						2				1			3	4
		入館者数						47				7			54	56
	大学	学校数				1	1		1	2			1		6	4
		入館者数				24	4		32	51			75		186	118
小中高PTA （保護者のみ）	学校数				1									1	1	
	入館者数				30									30	17	
小中高PTA （親子レク等）	学校数		1	3	2		1		1			1		9	13	
	入館者数		30	200	55		68		59			41		453	1,083	
生涯学習関係	研究会	会数		1				1						2	11	
		入館者数		8				40						48	408	
	子ども会	会数				9	1				1			11	15	
		入館者数				369	18				18			405	412	
	公民館等	館数		5	2	7	5	2	7	6	1	2		37	36	
		入館者数		161	62	206	193	59	202	109	8	49		1,049	1,150	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数			1		1		2	4		2	3	13	7	
		入館者数			18		33		24	50		26	36	187	136	
文化団体関係	資料館等	館数		1		2								3	3	
		入館者数		33		68								101	85	
	歴史研究	団体数	1	1	1			1		1			1	6	11	
		入館者数	39	30	25			32		31				30	187	265
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数				3	2	1		3			1	10	17	
		入館者数				56	83	27		55			13	234	433	
その他	その他	団体数	2	4	7	1	3	7	12	10	7	3	2	5	63	99
		入館者数	35	61	159	13	45	156	255	147	143	50	58	329	1,451	2,556
合計	団体数		22	26	34	38	15	33	36	35	11	10	10	6	276	328
	団体入館者数		1,290	953	1,323	1,512	470	1,429	1,303	714	221	165	265	359	10,004	12,515
	総入館者数		2,779	3,376	2,582	2,953	3,053	2,845	2,874	2,038	1,791	1,210	1,984	746	28,231	31,953
	団体利用者の割合		46.42%	26.23%	51.24%	51.20%	15.39%	50.23%	45.34%	35.03%	12.34%	13.64%	13.36%	48.12%	35.44%	39.17%

ほぼ同じ比率であった。

(2) 年齢層別利用状況

児童・小中高校生が全体の約 40%を占めている。対前年度より 4%の増加となり、多くは一般団体利用の減少によるものと考えられるが、白河市内の児童生徒らによる利用増加・定着も要因としてあげられるのではないかと考える。

(3) 団体利用状況と傾向

団体の入館総数は 276 団体で、前年度より 52 団体、約 16%の減少となった。観光客の団体が約 36%と大きく減少したほか、親子レクや生涯学習団体、市町村なども少なくなった。

団体の減少はそのまま入館者数の減少となり、団体での観光客は約 1,100 名、その他親子レクや生涯学習団体、市町村などの合計で約 1,200 名減った。

学校関係では、団体も入館者数もほぼ同程度を確保しており、地道な学校訪問などの成果が現れているものと推察される。

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務／山田設備工業(株)
- (2) 消防設備保守点検業務／大槻電気通信(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務／(株)ハイン
- (4) 自動ドア保全業務／昭和建産福島販売(株)
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務／(有)メンテナンス東北
- (6) 展示用及び講堂用 A V 機器保守点検業務／(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務／(有)永野造園
- (8) 清掃業務／タイセークリーン(株)
- (9) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (10) 電話設備等保守点検／(有)テレメディア東北

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 22 年 6 月 17 日 特別展示室室外機修繕
- (2) 22 年 8 月 2 日 常設展示室ショップライン修繕
- (3) 22 年 8 月 23 日 常設展示室展示ハイケース照明器具修繕
- (4) 22 年 9 月 6 日 常設展示室・特別展示室出入口防火扉修繕
- (5) 22 年 9 月 7 日 中央監視盤装置アナンシェータユニット修繕
- (6) 22 年 12 月 24 日 常設展示室室外機修繕
- (7) 23 年 1 月 25 日 休憩室・展示準備室室外機修繕
- (8) 23 年 2 月 18 日 前方後円墳内部照明制御盤修繕
- (9) 23 年 3 月 7 日 消防設備不備修繕



前方後円墳内部照明制御盤修繕

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

(箱)

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合 計
一般収蔵庫	41,730	2,970	943	520	10	46,173
特別収蔵庫	471					471
合 計	42,201	2,970	943	520	10	46,644

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

(点)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 22.4.1 ～平 23.3.31	株式会社日本フットボールヴィレッジ（常設展示）	橋葉町美シ森 B 遺跡出土弥生土器	3
平 22.4.1 ～平 23.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,478
平 22.4.1 ～平 23.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平 22.4.1 ～平 23.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所（常設展示）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
平 22.4.1 ～平 23.3.31	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（常設展示）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平 22.4.1 ～平 23.3.31	独立行政法人国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
平 22.4.1 ～平 23.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平 22.4.1 ～平 22.6.4	福島県立博物館（特集展「平成新指定史跡展覧－未来へつなぐ福島」）	いわき市大猿田遺跡出土木製品ほか	10
平 22.7.6 ～平 22.9.28	仙台市富沢遺跡保存館（特別企画展「洞穴遺跡の考古学」）	西会津町塩喰岩陰遺跡出土土器ほか	21
平 22.12.7 ～平 23.3.18	南相馬市博物館（国史跡指定記念「古代陸奥国・行方の郡家－国史跡・泉官衙遺跡－」）	玉川村江平遺跡出土木簡ほか	26
平 23.2.4 ～平 23.3.15	大安場史跡公園（企画展「古墳時代の鉄製品」）	矢吹町弘法山古墳群出土大刀ほか	4
合 計			1,583

(2) 模型及びレプリカ

(点)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 22.4.1 ～平 23.3.31	福島県立博物館（常設展示）	梵鐘復元品ほか	10
平 22.4.1 ～平 22.6.4	福島県立博物館（特集展「平成新指定史跡展覧－未来へつなぐ福島」）	白河市野地久保古墳復元模型	1
平 22.5.25 ～平 22.5.28	福島県文化振興事業団遺跡調査部（報告書作成のため）	湯川村桜町遺跡遺構図面一式	1
平 22.6.5 ～平 22.7.3	福島県立須賀川養護学校（体験学習のため）	火おこし体験道具一式	1
平 22.9.1 ～平 22.10.28	東北歴史博物館（特別展「多賀城・大宰府と古代の都」）	多賀城に向かう軍団兵士模型ほか	5
平 22.9.3 ～平 22.10.26	白河市歴史民俗資料館（テーマ展「白河の国指定史跡」）	白河市野地久保古墳復元模型	1
合 計			19

3. 写真掲載等承認

(点)

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 22.4.25	南相馬市博物館（『原町市史 第3巻 考古資料編1』）	南相馬市金沢地区製鉄遺跡群全景写真ほか	77
平 22.4.28	仙台市富沢遺跡保存館（特別企画展「洞穴遺跡の考古学」における展示図録等）	西会津町塩喰岩陰遺跡近景写真ほか	3
平 22.5.11	福島県立博物館（テーマ展「ふるさとの考古資料1【会津若松市】遺跡探訪」における展示パネル等）	会津若松市一ノ堰 B 遺跡土抗墓群写真ほか	3
平 22.5.28	塩川町史編さん専門委員会（『塩川町史 第3巻 資料編1 考古』）	喜多方市麻生館遺跡調査部全景写真ほか	41
平 22.6.22	福島県歴史資料館（「ふくしま森林文化企画展」図録）	いわき市大猿田遺跡の風景想像図ほか	2
平 22.6.30	横手市史編さん室（『横手市史 普及版』）	弩復元品写真	1
平 22.7.9	東北歴史博物館（特別展「多賀城・大宰府と古代の都」における展示図録等）	多賀城に向かう軍団兵士模型写真ほか	7
平 22.7.9	小野町教育委員会（森と湖に親しむ旬間「こまちダムまつり2010」における展示パネル）	小野町沢目木遺跡調査区中央～西側全景写真ほか	25
平 22.7.17	毎日新聞学芸部（毎日新聞大阪本社発行夕刊連載企画「あおによし～奈良の都は1300年」）	玉川村江平遺跡出土横笛写真	1
平 22.8.3	朝日新聞出版教育・ジュニア編集部（『週刊 新マンガ日本史』2号）	常設展示「古墳時代ブース」写真	1
平 22.8.14	小学館出版局（『J r. 日本の歴史』第1巻「国のなりたち」）	野外展示「奈良時代の倉庫」写真	1
平 22.8.26	棚倉町教育委員会（社会科副読本「わたしたちの町たなぐら」）	常設展示「縄文時代ブース」写真ほか	6
平 22.8.26	福島県教育会館（2011年度版小学校「夏休みの友」）	常設展示「奈良・平安時代の食卓」写真	1
平 22.8.26	南相馬市博物館（企画展「国史跡指定記念 古代陸奥国・行方の郡家－国史跡 泉官衙遺跡－」図録）	玉川村江平遺跡出土木簡ほか	23
平 22.9.17	福島県教育会館（2011年度版小学校「夏休みの友」）	常設展示「縄文時代の食卓」写真	1
平 22.9.25	朝日新聞出版教育・ジュニア編集部（『週刊 新マンガ日本史』7号）	多賀城に向かう軍団兵士模型写真ほか	2
平 22.9.25	仙台市富沢遺跡保存館（企画展「レプリカ展」における展示パネル）	弩復元品写真	1

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 22.9.30	アーク・コミュニケーションズ（『古事記・日本書紀のすべてがわかる本』ナツメ社）	常設展示「古墳時代の食卓」写真ほか	3
平 22.9.30	南相馬市博物館（企画展「国史跡指定記念 古代陸奥国・行方の郡家―国史跡 泉官衙遺跡―」図録）	南相馬市大船迫A遺跡出土土師器甕ほか	9
平 22.11.6	日下部善己（『縄文時代の基礎的構造』）	二本松市塩沢上原A遺跡Ⅰ区Ⅺ号複式炉実測図ほか	2
平 22.11.6	山川出版社（高等学校用日本史教科書）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真	1
平 22.11.6	シー・プランニング（HP「毎日学くん」）	白河館外観写真ほか	34
平 22.11.6	正進社（『社会科資料集6年』）	常設展示「古墳時代の食卓」写真	1
平 22.11.19	南相馬市博物館（企画展「国史跡指定記念 古代陸奥国・行方の郡家―国史跡 泉官衙遺跡―」図録）	南相馬市金沢地区製鉄遺跡群遠景写真ほか	11
平 22.11.27	大田原市立大田原小学校（社会科副読本「のびゆく大田原市」）	常設展示「昭和40年代ブース」写真	1
平 22.11.28	福島県教育会館（2011年度版小学校「夏休みの友」）	常設展示「縄文時代ブース」写真ほか	2
平 22.12.14	関博充（論文「律令期の陸奥国官衙・城柵における鉄・鉄器普及について」）	製鉄実験（まほろん3号炉）写真	4
平 22.12.14	福島県教育会館（2011年度版小学校「夏休みの友」）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1
平 22.12.18	しもつけ風土記の丘資料館（企画展「最古の飛び道具「弓矢」展」解説資料）	「弓を射る軍団兵士模型」写真	1
平 22.12.18	新人物往来社（月刊『歴史読本』2011年2月号）	郡山市荒小路遺跡ほか出土土偶	3
平 23.1.28	南相馬市博物館（『原町市史 第3巻考古資料編Ⅰ』）	南相馬市大船迫A遺跡出土墨書土器	1
平 23.1.28	三省堂（『小学生の国語』準拠制作物）	常設展示「古墳時代の食卓」写真	1
平 23.2.3	大安場史跡公園（企画展「古墳時代の鉄製品」パンフレットほか）	矢吹町弘法山古墳群出土大刀ほか	3
平 23.2.18	栃放エンタープライズ（とちぎテレビ『栃木のきらめき』）	「多賀城に向かう軍団兵士模型」写真ほか	2
平 23.2.18	仙台市富沢遺跡保存館（企画展「動物の考古学」図録）	小野町沢目木B遺跡ほか出土縄文土器	6
平 23.2.18	いわき市教育文化事業団（いわき市『みんなで学ぶ いわきの歴史』）	いわき市白岩堀ノ内遺跡出土鉄鏃ほか	3
平 23.2.18	福島大学行政政策学類（『学類教員紹介パンフレット』）	学芸員実習風景写真	1
平 23.2.22	郡山市教育委員会（『平成23年度版 ふるさと郡山の歴史』）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平 23.3.5	市原市教育委員会（『発掘いちはらの遺跡』）	「古墳時代の馬具復元品」写真	1
		合 計	292

4. 資料閲覧

（1）遺 物

（点）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平 22.4.14	県外研究者（調査研究のため）	泉崎村関和久遺跡出土瓦ほか	15
平 22.5.18	県外研究者（調査研究のため）	泉崎村関和久上町遺跡出土瓦	3
平 22.6.13	川越縄文土器の会（縄文土器製作の参考のため）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	11
平 22.7.18	県内研究者（調査研究のため）	泉崎村関和久上町遺跡出土瓦	354
平 22.8.20	県外研究者（調査研究のため）	本宮市高木遺跡出土土偶ほか	77
平 22.8.26	南相馬市博物館職員（企画展「古代陸奥国・行方の郡家―国史跡・泉官衙遺跡―」事前調査）	玉川村江平遺跡出土木簡ほか	23
平 22.9.3	県外研究者（調査研究のため）	飯舘村松ヶ平A遺跡出土縄文土器ほか	172
平 22.9.24	県外研究者（調査研究のため）	新地町善光寺遺跡出土須恵器ほか	415
平 22.9.25	県外研究者（調査研究のため）	本宮市高木遺跡出土須恵器ほか	31
平 22.11.10	県外研究者（調査研究のため）	南相馬市長瀬遺跡出土炉壁ほか	4
平 22.11.12	是川縄文館開館準備室職員（開館記念特別展事前調査）	飯舘村上ノ台A遺跡出土縄文土器ほか	9
平 22.11.14	県外研究者（調査研究のため）	新地町双子遺跡出土丸木舟	2
平 22.11.17	県内研究者（調査研究のため）	会津美里町冨宮西遺跡出土縄文土器ほか	592
平 23.2.22	県外研究者（研究論文作成のため）	郡山市正直A遺跡出土土師器ほか	186
		合 計	1,894

（2）その他

（点）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平 22.7.23	県外大学院生（調査研究のため）	製鉄実験資料	8
平 22.9.7	大熊町教育委員会職員（復元品製作の参考として）	弓矢復元品ほか	3
平 22.10.16	県内研究者（調査研究のため）	二本松市塩沢上原A遺跡住居跡群写真ほか	3
平 22.11.12	県外大学院生（調査研究のため）	製鉄実験資料	4
平 23.1.25	県内研究者（調査研究のため）	青森市埋蔵文化財調査報告書106	1
平 23.3.9	県外研究者（調査研究のため）	白河市菅内古墳群出土馬具復元品ほか	2
		合 計	21

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」(磐梯町法正尻遺跡)
- ②「探してみよう福島文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー〈話題の遺跡〉

常設展展示一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
しらかわ歴史名場面	西郷村茅窪遺跡	平成22年4月1日～平成22年5月16日	西郷村教育委員会	平成21年度より継続
	白河市三森遺跡(旧表郷村)	平成22年5月18日～平成22年11月11日	白河市教育委員会	
	白河市小峰城跡	平成22年12月1日～平成23年3月31日	白河市教育委員会	平成23年度も継続
みんなの研究ひろば	1 まほろんイベント「古代の鉄くづり」報告	平成22年4月1日～平成23年3月31日	館蔵	平成21年度より継続 平成23年度も継続
	実技講座「古代の鍛冶体験」成果品(ペーパーナイフ)	平成22年11月9日～平成23年3月31日	館及び個人蔵	平成23年度も継続
	2 「しのぶもちずり」に挑戦	平成22年4月1日～平成22年5月16日	第8期森の塾生	平成21年度より継続
	まほろん紀要報告「相馬市明神・山岸硝庫跡」	平成22年5月18日～平成22年9月12日	館蔵	資料紹介
	復元研究の成果(馬具の馬鈴)	平成22年10月20日～平成23年3月31日	館蔵	平成23年度も継続
話題の遺跡	南相馬市浦尻貝塚(国指定史跡)	平成22年4月1日～平成22年5月16日	南相馬市教育委員会	平成21年度より継続
	湯川村桜町遺跡	平成22年5月18日～平成22年9月5日	館蔵	
	玉川村宮ノ前A遺跡	平成22年9月7日～平成22年12月28日	館蔵	
	南相馬市(旧鹿島町)宮前遺跡	平成23年1月5日～平成23年3月31日	館蔵	平成23年度も継続
エントランス 『ふくしまの宝物』	本宮市高木遺跡	平成22年4月20日～平成22年6月30日	館蔵	
	楢葉町小山B遺跡	平成22年7月1日～平成22年9月30日	館蔵	
	天栄村桑名邸遺跡	平成22年10月1日～平成22年12月28日	館蔵	
	玉川村江平遺跡	平成23年1月4日～平成23年2月27日	館蔵	
	玉川村金波B遺跡	平成23年3月1日～平成23年3月31日	館蔵	平成23年度も継続

- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」
- ⑨映像展示
「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示

平成22年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に、作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、来館者に白河地方の文化財を親しんでもらうため、さらに地域の生涯学習関係者と連携して、各市町村の発掘調査資料を中心に、話題性や地域性のある資料を積極的に掘り起こし、フレキシブルな展示を企画している。本年度は、3遺跡について紹介した。

◇西郷村茅窪遺跡

白河市に隣接する西郷村茅窪遺跡は、縄文時代前期から後期にかけての集落遺跡であり、北関東に隣接する立地条件から、北関東と東南北部の縄文文化を含む遺跡である。

◇白河市三森遺跡（旧表郷村）

古墳時代中期の豪族居館や集落が発見されており、西側に隣接する建鉾山祭祀遺跡との関係が注目されている遺跡である。

◇白河市小峰城跡

江戸時代前期に丹羽長重によって大改修が加えられ、昭和 60 年代から平成にかけて石垣や堀が調査されている。平成 22 年 8 月 5 日には国の史跡に指定された。

2) みんなの研究広場

「みんなの研究広場」は、一般県民の歴史や文化財等に関する研究を積極的に紹介することで、県民と歴史・文化財等が近い存在で有ることを印象付ける特徴的コーナーであり、児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示する。

◇実技講座「古代の鍛冶体験」の成果品

古代の遺跡から出土した蕨手刀などの鉄製品をモデルとし、古代のモノづくりを体験する企画である。その成果品を「みんなの研究広場」で展示した。

このほかに、職員の研究紀要「相馬市明神・山岸硝庫跡」・まほろんイベント「古代の鉄づくり」・復元研究の成果「いわき市中田横穴出土馬鈴の復元」などを展示した。

3) 話題の遺跡

県内の文化財情報を積極的に収集し、話題性に富んだ新鮮な展示を行っている。特に企画展の展示内容と関連した企画し、展示室総体が連携するように努めると共に、関係の自治体や生涯学習施設と連携して進めている。

◇南相馬市浦尻貝塚

浜通り北部の代表的な貝塚で、平成 18 年 1 月に国の史跡に指定されており、中通り地方南部では紹介例も少なく、初めてまほろんにて展示した。

◇湯川村桜町遺跡

会津地域の弥生時代の集落を考える上で重要

な遺跡である。弥生時代後期の墓制である周溝墓など良好な資料が確認されており、関連資料を展示した。

◇玉川村宮ノ前 A 遺跡

中通り中部にある江戸時代を中心とする集落遺跡で、県内産をはじめ国内産陶磁器の良好な資料が確認されており、陶磁器の流通経路を考える上で貴重な遺跡である。

◇南相馬市宮前遺跡

浜通り北部の縄文時代の集落遺跡で、当地方では調査例の少ない縄文時代前期から中期にかけての良好な資料が確認されている。

4) 「ふくしまの宝物」

まほろんに所蔵されている出土品の中から、学芸員が紹介する「ふくしまの宝物」である。当館学芸員が交代で、5 回の展示を行った。

(3) 展示資料の破損等

◆常設展示

来館者の接触によると思われる展示物（レプリカ）の軽微な破損が見られた。

◆野外展示

経年劣化による展示造形物の床・壁・柱などに生じた隙間やひび割れなどが、増加・拡大をしている。

◆東日本大震災による被害

3 月 11 日に発生した東日本大震災により、常設展示室の展示物及び野外展示の復元建物等に大きな被害が出た。

(4) メンテナンス

破損した展示資料のうち、とくに目立つ部分について修繕を行った。修繕箇所および方法は、以下のとおり。

◆縄文時代の家

入口階段の土留めが崩落したので、支柱の補強と土砂の整地を行った。

◆前方後円墳

石室入口のセンサーが破損したため、新しいものと交換した。

◆平安時代の製鉄炉

屋根の交換、炉土留めの矢板を取り付け、流失分の土を充填転圧した。

◆室町時代の館

櫓の支柱が腐食により崩壊の恐れが出たため、修繕を予定したが、東日本大震災により実施できなかった。

2. 企画展示

(1) ふくしま森林文化企画展

「原始・古代の森と人との共生」

会 期：平成22年6月26日（土）～8月29日（日）（開催日数62日間）

観覧者数：6,339名



ふくしま森林文化企画展ポスター

1) 趣旨

福島県が、豊かな森林を健全な状態で次世代に引き継ぐため、平成18年度から導入した森林環境税による取り組みのシンボル事業として、県内5つの文化施設等が連携して、「ふくしま森林文化企画展」を開催した。

当館では、県内外の旧石器時代や縄文時代の出土資料を展示して、人々が時代とともに移り変わる環境に合わせて、森を切り拓き、森の様々な資源を活用して、生きるための道具を作り、植物や動物などの森の恵みを食料としてきたことを紹介した。

2) 展示の構成と内容

①森を切り拓く

森林を伐採する斧に焦点をあて、旧石器時代・



ふくしま森林文化企画展

縄文時代・弥生時代の磨製石斧、平安時代の鉄斧を展示して、原始・古代の森林伐採の道具、木材の加工具の変遷を紹介するとともに、縄文時代の磨製石斧の製作工程も紹介した。

②森から創る

縄文時代の丸木舟・容器などの木製品、漆製品を展示して、縄文時代の木材や樹皮、樹液の利用を紹介した。また、森に囲まれて生活した人々が使用した土器の逸品も展示した。

③森の恵み

遺跡から出土したクリ、クルミ、トチなどの木の実やキノコ形土製品、森林の中で生活する猪や鹿、ツキノワグマなどの動物依存体資料や動物形土製品、狩猟具を展示して、原始・古代の森の食糧資源について紹介した。

④県政PRパネル展示

森林環境税、各館の企画展、森林整備事業等についての福島県作成パネルを展示した。



森林環境学習の成果パネル展示

ふくしま森林文化企画展 展示資料一覧

コーナー	遺 跡 名	資 料 名	点数	所蔵者	備考
プロローグ		直柄石斧復元品	1	福島県教育委員会（まほろん）	
		膝柄石斧復元品	1	福島県立博物館	
		鉄斧復元品	1	福島県教育委員会（まほろん）	
森を切り拓く	南相馬市萩原遺跡	ナイフ形石器	8	福島県教育委員会	
		磨製石斧	2		
	楡葉町大谷上ノ原遺跡	ナイフ形石器	5	福島県教育委員会（まほろん）	
		磨製石斧	1		
	須賀川市乙字ヶ滝遺跡	ナイフ形石器	3	須賀川市立博物館	
		磨製石斧	1		
	会津若松市笹山原No.8 遺跡	ナイフ形石器	3	郡山女子大学短期大学部	
		磨製石斧	3		
	福島市仙台内前遺跡	石器	5	福島市教育委員会	福島県指定重要文化財
		磨製石斧	1		福島県指定重要文化財
	西会津町塩喰岩陰遺跡	磨製石斧	3	福島県教育委員会（まほろん）	
	郡山市中ノ沢 A 遺跡	磨製石斧	1		
	磐梯町天光遺跡	磨製石斧	1		
	三春町堀ノ内遺跡	磨製石斧	1		
	三春町蛇石前遺跡	磨製石斧	1		
	新地町高田遺跡	磨製石斧	1		
	南相馬市長湊遺跡	磨製石斧	1		
	須賀川市蛭館 B 遺跡	磨製石斧	1		
	いわき市白岩堀ノ内遺跡	磨製石斧	1		
	石川町大内 B 遺跡	鉄斧	1		
	いわき市大猿田遺跡	斧の柄	1		
	飯館村羽白 D 遺跡	磨製石斧	4		
	浪江町中平遺跡	磨製石斧	2		
	天栄村桑名邸遺跡	磨製石斧	1		
	新潟県村上市アチャ平遺跡	磨製石斧	24	村上市教育委員会（縄文の里・朝日）	
	新潟県新発田市上車野 E 遺跡	磨製石斧（製品・未成品・転用品）	9	新発田市教育委員会	
		多面体石	4		
		砥石	1		
		剥片	38		
	三島町荒屋敷遺跡	木製品	2	三島町教育委員会（福島県立博物館保管）	福島県指定重要文化財
森から創る	山形県高島町押出遺跡	彩漆土器レプリカ	1	山形県教育委員会（山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館保管）	
		縄文土器	3		国指定重要文化財
		漆付着土器	3		国指定重要文化財
		石斧	3		国指定重要文化財
		玦状耳飾	1		国指定重要文化財
		石棒	1		国指定重要文化財
		石槍	6		国指定重要文化財
		石匙	2		国指定重要文化財
		異形石器	5		国指定重要文化財
		筥状木製品	8		国指定重要文化財
		木胎漆器	2		国指定重要文化財
		把手状木製品・杓状木製品	3		国指定重要文化財
		樹皮製品	1		国指定重要文化財
	新地町双子遺跡	丸木舟	1	福島県教育委員会（まほろん）	
	新潟県村上市元屋敷遺跡	縄文土器	9	村上市教育委員会（縄文の里・朝日）	新潟県指定有形文化財
		土偶	2		新潟県指定有形文化財
		耳飾り	8		新潟県指定有形文化財
		腕輪	2		新潟県指定有形文化財
		土版	1		新潟県指定有形文化財
		石棒	5		新潟県指定有形文化財
		玉類	6		新潟県指定有形文化財
		岩版	2		新潟県指定有形文化財
		異形石器	6		新潟県指定有形文化財
森の恵み	喜多方市上林遺跡	炭化クリ	50	喜多方市教育委員会	
	三島町荒屋敷遺跡	トチ	20	三島町教育委員会（福島県立博物館保管）	
	山形県高島町押出遺跡	クルミ	25	山形県教育委員会（山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館保管）	
		クッキー状炭化物	29		国指定重要文化財
	飯館村羽白 C 遺跡	キノコ形土製品	8	福島県教育委員会（まほろん）	
		石鏃	7		
		石匙	10		
		石槍	2		
	飯館村羽白 D 遺跡	炭化クリ	1		
	飯館村岩下 A 遺跡	キノコ形土製品	1		
	飯館村稲荷塚 B 遺跡	キノコ形土製品	1		
	須賀川市王子前遺跡	キノコ形土製品	1		
	須賀川市一斗内遺跡	キノコ形土製品	1		
	須賀川市浜井場 B 遺跡	キノコ形土製品	1		
	磐梯町角間遺跡	動物形土製品	1		
	郡山市荒小路遺跡	動物形土製品	2		
	富岡町本町西 A 遺跡	猪の顔が付いた土器	2		
	下郷町南倉沢遺跡	猪の顔が付いた土器	3		
	西会津町塩喰岩陰遺跡	動物遺存体	23		
		石槍	4		
	福島市獅子内遺跡	石槍	6		
	福島市穴田遺跡	猪形土製品	1	福島県立博物館	

⑤森林環境学習の成果パネル展示

県中及び県南地区の38校の小学校や中学校で行われている、森林環境に関する学習成果を紹介したパネルを展示した。

3) 関連行事

①森林文化講演会

平成22年8月14日に、山田昌久氏（首都大学東京教授）による講演会「原始・古代の森の資源の利用—縄文人の自然知と工夫をさぐる—」と石斧・鉄斧・鋸・チェーンソーによる伐採実演を開催した。

②体験学習「古代のきこり体験—石・鉄の斧で木を伐採してみよう—」

8月16～22日に石斧や鉄斧による丸太の伐採体験を実施した。体験者数：172名。

③古代の小径散策

体験広場周辺の森に散策路「古代の小径」を整備し、小径沿いの樹木脇に古代における使われ方を示した看板を設置した。また、展示期間中は、随時、職員やボランティアによる「植物観察ツアー」を実施した。

4) 成果と反省

森林文化ということから、木製品をもっと多く出品するべきであったのかも知れない。

なお、展示期間中の来館者数は6,339名であり、今年度の当館企画展の中では最高人数であった。

また、展示資料数は合計413点であるが、その内、75%は県内外の施設からの借用品であり、さらに、その3分の2は県外からの借用品であった。今回の展示に際し、県内外の2施設から国指定重要文化財の山形県高島町押出遺跡出土品や新潟県指定有形文化財の新潟県村上市元屋敷遺跡出土品、福島県指定重要文化財の福島市仙台内前遺跡出土品、三島町荒屋敷遺跡出土品をはじめ貴重な資料をお貸しいただいた。

(2) ふくしま里帰り展

「ふくしまの土偶」

会 期：平成22年9月25日（土）～11月28日（日）（開催日数56日間）

観覧者数：5,341名

（移動展）

会 場：福島県立博物館

会 期：平成22年12月7日（火）～平成23年1月30日（日）（開催日数40日間）

観覧者数：1,058名



ふくしま里帰り展のポスター

1) 趣旨

「ふくしま里帰り展」は、県外の機関などに所属していて、普段見ることのむずかしい資料を福島県に里帰りさせる企画である。

平成22年度は、「ふくしまの土偶」と題して、東京大学総合研究博物館及び東北大学大学院文学研究科が所蔵している土偶を里帰りさせた。あわせて県内の市町村が所蔵している土偶及び当館で保管している土偶を紹介し、ふくしまの土偶の多様性、変遷などをご覧いただいた。

2) 展示の構成と内容

①「ふくしまの土偶」の里帰り

福島県内で発見され、東京大学総合研究博物館に所蔵されている土偶、東北大学大学院文学研究科に所蔵されている土偶を展示し、それらが発見された経緯、学史的に重要な資料となったことなどを紹介した。

②縄文時代早期・前期の土偶

広野町上田郷VI遺跡出土土偶など福島県内最

古とされる土偶、新地町山中B遺跡出土土偶などを展示し、板状の体部、簡略表現の顔面などを紹介した。

③縄文時代中期の土偶

柳津町石生前遺跡出土土偶、郡山市曲木沢遺跡出土土偶などを展示し、立像化し、顔面表現の豊かな中期土偶を紹介した。また、新地町川窪遺跡出土土偶などから、中期末の土偶の変化を紹介した。

④縄文時代後期の土偶

郡山市荒小路遺跡出土土偶や三春町柴原A遺跡出土土偶などのいわゆるハート形土偶、福島市上岡遺跡出土土偶などのいわゆる山形土偶を展示し、後期土偶の造形の変化を紹介した。

⑤縄文時代晩期の土偶・土版

三春町西方前遺跡出土土偶、三島町荒屋敷遺跡出土土偶、会津若松市墓料遺跡出土土偶などを展示し、遮光器土偶のほとんど見られない福島県内における晩期土偶の様相を紹介した。また、土偶に関連する遺物として、土版を展示した。

3) 関連行事

①文化財講演会「縄文土偶の世界」

実施日：平成22年10月17日

講師：原田昌幸氏（文化庁主任文化財調査官）

聴講者数：58名

②文化財研修

・体験学習支援研修Ⅱ「土偶づくり」

実施日：平成22年10月16日

講師：当館職員

参加者数：4名



里帰り展 ふくしまの土偶 展示風景

里帰り展 ふくしまの土偶 展示資料一覧

遺跡名	所在地	点数	所蔵者	備考
大田和広畑遺跡	南相馬市小高区大田和	1	東京大学総合研究博物館	
塚の前遺跡	浪江町酒井	2	東京大学総合研究博物館	
八幡遺跡	会津若松市一箕町八幡	2	東京大学総合研究博物館	
門田遺跡	会津若松市門田町	1	東京大学総合研究博物館	
堀田遺跡	田村市常葉町山根	1	東京大学総合研究博物館	
三貫地貝塚	新地町駒ヶ嶺	5	東京大学総合研究博物館	
新地小川貝塚	新地町小川	2	東京大学総合研究博物館	
守山遺跡	郡山市田村町守山	1	東京大学総合研究博物館	
桑野遺跡	郡山市桑野	1	東京大学総合研究博物館	
真石貝塚	いわき市小名浜南富岡字真石	1	東京大学総合研究博物館	
百間沢遺跡	浪江町北幾世橋	2	東京大学総合研究博物館	
竈原遺跡	会津坂下町長井	2	東北大学大学院文学研究科	
上岡遺跡	福島市飯坂町東湯野字上岡	1	福島市教育委員会	県指定重要文化財
月崎A遺跡	福島市飯坂町中野字月崎	13	福島市教育委員会	
南諏訪原遺跡	福島市松川町字南諏訪原	2	郡山市教育委員会	
和台遺跡	福島市明治字南和台	18	福島市教育委員会	
八万館遺跡	二本松市八万館	2	二本松市教育委員会	
町B遺跡	郡山市西田町鬼生田字町	9	郡山市教育委員会	
四十内遺跡	郡山市逢瀬町河内字四十内	2	郡山市教育委員会	
柳橋遺跡	郡山市中田町柳橋字町	4	郡山市教育委員会	
曲木沢遺跡	郡山市西田町根本屋字曲木沢	1	郡山市教育委員会	
西方前遺跡	三春町西方字西方前	18	三春町教育委員会	
矢大臣遺跡	小野町湯沢字新田	5	小野町教育委員会	
川窪遺跡	新地町杉目字川窪	2	新地町教育委員会	
三貫地貝塚	新地町駒ヶ嶺	1	新地町教育委員会	
朴木原遺跡	新地町福田朴木原	1	新地町教育委員会	
浦尻貝塚	南相馬市小高区浦尻	1	南相馬市教育委員会	
道平遺跡	大熊町大川原字道平	6	大熊町教育委員会	
愛谷遺跡	いわき市好間町愛谷	16	いわき市教育委員会	
綱取貝塚	いわき市小名浜下神白字綱取	3	いわき市教育委員会	
作B遺跡	いわき市三和町上永井字作	1	いわき市教育委員会	
差塩B遺跡	いわき市三和町差塩字道添	1	いわき市教育委員会	
博毛遺跡	喜多方市高郷町大田賀字博毛	9	喜多方市教育委員会	
金山遺跡	喜多方市山都町木幡字金山	6	喜多方市教育委員会	
沢口遺跡	喜多方市山都町一ノ木字沢口	1	喜多方市教育委員会	
上林遺跡	喜多方市山都町木幡字道東	2	喜多方市教育委員会	
「日照下堂前」	喜多方市山都町木幡	1	喜多方市教育委員会	
上小島A遺跡	西会津町登世島字塩田	10	西会津町教育委員会	
小屋田遺跡	西会津町野沢字小屋田	4	西会津町教育委員会	
墓料遺跡	会津若松市一箕町八幡字墓料	1	会津若松市教育委員会	
石生前遺跡	柳津町郷戸字石生前	10	柳津町教育委員会	県指定重要文化財
荒屋敷遺跡	三島町桑原字荒屋敷	8	三島町教育委員会	県指定重要文化財
常世原田遺跡	喜多方市塩川町常世字原田	1	個人蔵	
大原遺跡	喜多方市塩川町中屋沢字新開	1	個人蔵	
刈摩山遺跡	喜多方市塩川町常世字刈摩山	1	個人蔵	
白津遺跡	猪苗代町八幡白津	1	個人蔵	
植ノ畑遺跡	南相馬市鹿島区上栃窪	1	福島県立相馬高等学校	
三貫地貝塚	新地町駒ヶ嶺	3	福島県立相馬高等学校	
小和瀬遺跡	三島町松原小和瀬	1	福島県立博物館	レプリカ
西田H遺跡	小野町菖蒲谷字西田	1	福島県教育委員会	
沢目木B遺跡	小野町雁股田字沢目木	2	福島県教育委員会	
山中B遺跡	新地町駒ヶ嶺字山中	5	福島県教育委員会	
萩原遺跡	南相馬市小高区羽倉字萩原	2	福島県教育委員会	
弓手原遺跡	福島市飯坂町茂庭字弓手原	1	福島県教育委員会	
高木遺跡	本宮市高木字高木	5	福島県教育委員会	
七郎内C遺跡	石川町字下ノ内	5	福島県教育委員会	
一斗内遺跡	須賀川市小倉字一斗内	11	福島県教育委員会	
荒小路遺跡	郡山市田村町谷田川字荒小路	7	福島県教育委員会	
徳定A遺跡	郡山市田村町徳定	1	福島県教育委員会	
松ヶ作A遺跡	須賀川市雨田字松ヶ作	1	福島県教育委員会	
柴原A遺跡	三春町柴原	8	福島県教育委員会	
鬼渡A遺跡	会津坂下町勝大字鬼渡	1	福島県教育委員会	
羽白C遺跡	飯館村大倉字羽白	16	福島県教育委員会	
上田郷VI遺跡	広野町上北迫字上田郷	2	福島県教育委員会	
角間遺跡	磐梯町更科字角間	3	福島県教育委員会	
又兵衛田A遺跡	須賀川市小倉字高柴	1	福島県教育委員会	
桑名邸遺跡	天栄村大里字桑名邸	10	福島県教育委員会	
越田和遺跡	三春町蛇石字越田和	1	福島県教育委員会	
塩喰岩陰遺跡	西会津町野沢字塩喰家ノ上	3	福島県教育委員会	
浜井場B遺跡	須賀川市雨田字浜井場	2	福島県教育委員会	
宮前遺跡	飯館村大倉字宮前	1	福島県教育委員会	
羽白D遺跡	飯館村大倉字羽白	1	福島県教育委員会	
日向南遺跡	飯館村大倉字日向	2	福島県教育委員会	

・専門考古学講座Ⅱ「福島県の土偶」

実施日：平成22年11月13日

講師：山内幹夫（福島県歴史資料館）

参加者数：25名

③実技講座

「家族で土偶・土面をつくろう」

実施日：（製作）平成22年11月7日

（野焼き）平成22年11月27日

参加者数：延べ25名

4）成果と反省

今回の展示では、来館者から「土偶の精緻な表現に感動した」「年代によって土偶のセンスが違っていた」「（福島県域に住んでいた）我々の先祖を誇りに思う」といった感想が寄せられた。展示のねらいは十分に達成されたものと思われる。

しかし、「土偶と埴輪の違いを知りたい」「時系列だけでなく空間的な広がりも知りたい」といった要望もあり、展示方法等にさらに工夫が必要であった。また、広報にも力を入れたつもりであったが、中学校社会科の先生から「展示を知らなかった」との指摘もあり、広報の方法等もさらに検討し、より多くの来館者を迎えるようにしたい。

（3）指定文化財展

「ふくしまの重要文化財展Ⅷ 関和久官衙遺跡」

会 期：平成22年1月15日（土）～2月20日（日）（開催日数32日間）

観覧者数：2,404名

1）趣旨

福島県内の重要文化財を紹介する「ふくしまの重要文化財」シリーズの第8弾として、福島県教育委員会が西白河郡泉崎村関和久で昭和47年～56年までの10年間の発掘調査によって出土した「関和久遺跡」の資料のうち、「県指定重要文化財（考古資料）」に指定されている資料を取り上げ、関和久官衙遺跡が古代白河郡衙であったことを紹介する展示会とした。

2）展示の構成と内容

展示資料は、古代の役所を特徴づけるものとして、土器の器面に文字が書かれた「墨書土器」を中心とし、隣接する関和久上町遺跡や地方官衙に付随するとされた白河市借宿廃寺跡の

瓦やせん仏なども紹介した。また、関和久官衙遺跡に関連する周辺の遺跡として、板倉前B遺跡・赤根久保遺跡・佐平林・谷地前C遺跡・達中久保遺跡の5遺跡から出土した墨書土器を紹介し、役所跡と集落跡から出土した墨書土器に書かれた文字の意味の違いを紹介した。

（4）まほろん収蔵資料展

「新編陸奥国風土記 巻之八 宇多郡」

会 期：平成22年3月13日（土）～5月16日（日）（開催日数56日間）

観覧者数：4,918名（平成22年度観覧者）

平成21年度収蔵資料展を継続して開催した。趣旨・内容等については、年報2010の中で詳しく紹介した。

（5）まほろん移動展

本年度の移動展は、国重要文化財指定1周年記念「法正厩遺跡」を磐梯町慧日寺資料館、ふくしま里帰り展「ふくしまの土偶」を福島県立博物館（会津若松市）で開催した。

1）国重要文化財指定1周年記念「法正厩遺跡」移動展（磐梯町）

会 期：平成22年6月19日～8月17日（開催日数60日間）

会 場：慧日寺資料館

観覧者数：4,620名

共 催：磐梯町教育委員会

内 容：国の重要文化財（美術工芸品）に指定された法正厩遺跡出土の縄文土器を展示した。なお、7月31日（土）に文化財講演会「法正厩遺跡縄文人の世界」が行われた。

2）「里帰り展 ふくしまの土偶」

会 場：福島県立博物館

会 期：平成22年12月7日（火）～平成23年1月30日（日）（開催日数40日間）

観覧者数：1,058名

内 容：「ふくしまの土偶」について、より多くの人々にご覧いただくため、福島県立博物館（会津若松市）にて移動展を開催した。展示資料は当館の展示と同一であるが、「土偶と埴輪のちがいを説明するコーナーを設けるなど、展示構成・展示方法には工夫を加えた。

3. 講演会・講習会

(1) 館長講演会

平成 22 年度は、「私の世界文化遺産散歩—イタリア編—」をテーマとして、年に 6 回の講演会を予定したが、平成 22 年 9 月に藤本元館長が急逝したため、講演会は 3 回に止まった。

- ・平成 22 年 4 月 24 日（土）第 1 回「ローマと周辺の世界文化遺産」42 名
- ・平成 22 年 5 月 22 日（土）第 2 回「ポンペイと周辺の世界文化遺産」59 名
- ・平成 22 年 7 月 3 日（土）第 3 回「イタリア南部の世界文化遺産」31 名

(2) 文化財講演会

企画展などとタイアップして、今年度は以下の講演会を実施した。

「法正厩遺跡縄文時代の世界」をテーマとして、國學院大學名誉教授の小林達夫氏が講演を行った。

- ・日 時：平成 22 年 7 月 31 日（土）
- ・参加者：63 名

「原始・古代の森の資源の活用」をテーマとして、首都大学東京都市教養学部教授の山田昌久氏が講演を行った。

- ・日 時：平成 22 年 8 月 14 日（土）
- ・参加者：26 名

「縄文土偶の世界」をテーマとして、文化庁主任文化財調査官の原田昌幸氏が講演を行った。

- ・日 時：平成 22 年 10 月 17 日（日）
- ・参加者：58 名

(3) 文化財に関する上映会

文化財に関する上映会は、以下の 2 回にわた

り、文化財記録ビデオの上映及び当館学芸員の説明を実施した。

1) 第 1 回

- ・内 容：「男山八幡神社のお浜下り」(南相馬市)
- ・日 時：平成 23 年 1 月 29 日（土）
- ・参加者：14 名

2) 第 2 回

- ・内 容：「カラムシと麻」(昭和村)、「金沢の羽山ごもり」(福島市)
- ・日 時：平成 23 年 3 月 5 日（土）
- ・参加者：7 名

4. 体験学習

平成 22 年度に実施した体験学習メニューとその実績は、以下のとおりである。

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

体験活動室において実施する、個人来館者を対象とした体験学習メニューである。今年度は、昨年度までの実施状況を踏まえて、季節や当館の行事予定を考慮しつつ年間計画を作成し、通年体験できる「勾玉・管玉づくり」に、2 週間で入れ替わる 14 種類の期間限定メニューを組み合わせて実施した。

今年度の体験者数は、記録的な猛暑の影響で前半に伸び悩んでいたが、10 月 5 日から、人気の高い「火おこしに挑戦してみよう」を通年体験できるメニューに変更したところ、最終的には、昨年度より 966 名増となった。

また、新規メニューの開発のため、11 月 5～7 日に兵庫県立考古博物館「古代体験秋まつり」を視察研修した。次年度は、その成果をもとに、「組みひもづくり」と「ミニチュア土器づくり」を導入する予定である。

平成 22 年度講演会等実施一覧

名 称	講 師 名	実施日	受講者数	場所
館長講演会第 1 回「ローマと周辺の世界文化遺産」	藤本強館長	4 月 24 日（土）	42 名	講堂
館長講演会第 2 回「ポンペイと周辺の世界文化遺産」	藤本強館長	5 月 22 日（土）	59 名	講堂
館長講演会第 3 回「イタリア南部の世界文化遺産」	藤本強館長	7 月 3 日（土）	31 名	講堂
文化財講演会「法正厩遺跡縄文時代の世界」	小林達夫（國學院大學名誉教授）	7 月 31 日（土）	63 名	アルツ磐梯
森林文化講演会「原始・古代の森の資源の活用」	山田昌久（首都大学東京都市教養学部教授）	8 月 14 日（土）	26 名	講堂
文化財講演会「縄文土偶の世界」	原田昌幸（文化庁主任文化財調査官）	10 月 17 日（日）	58 名	講堂
文化財ビデオ上映会第 1 回「男山八幡神社のお浜下り」	大山孝正（当館職員）	1 月 29 日（土）	14 名	講堂
文化財ビデオ上映会第 2 回「カラムシと麻、金沢の羽山ごもり」	佐々木慎一（当館職員）	3 月 5 日（土）	7 名	講堂

体験活動室メニューの実施状況

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	2,212 名	竹笛をつくろう	4 名
管玉づくり	84 名	昔の遊び	119 名
火おこしに挑戦してみよう	1,903 名	毬杖であそぼう	9 名
時代衣装を着てみよう	440 名	つるし雛をつくってみよう	123 名
拓本に挑戦しよう	88 名	獣脚ろうそくづくり	45 名
土器づくり	77 名	琥珀勾玉づくり	19 名
ガラス玉をつくろう	228 名	匂袋をつくろう	50 名
アンギン編みに挑戦しよう	11 名	七夕飾りをつくってみよう	79 名

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

ゴールデンウィークや小中学校の夏休み期間、まほろんイベントの実施日、特別展示期間において、体験活動室メニューに加えて、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応体験メニューの実施状況

内容	参加者数	内容	参加者数
弓矢・やり投げ	2,065 名	カルメ焼き	56 名
バックヤードツアー	581 名	組みひも	10 名
石臼	209 名	木こり	172 名
紙しばい	66 名	植物観察ツアー	30 名



弓矢体験



木こり体験

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、火おこし、土器さわりなど8メニューを実施した。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

昔のさまざまな“モノづくり”を体験することで、文化財に対する理解を深めることを目的として実施した。

平成22年度は12講座21回について実施した。その中の「からくり劇場」は新たに実技講座に加えたもので、4回実施した。

なお実技講座の名称、日程、参加者数は別表のとおりである。

各講座の定数は10～16名で、家族を対象としたものでは10組となっている。概ね、定数を超える応募があった。中でも、「門松づくり」「古銭づくり」は定数を大幅に上回った。

実技講座実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	第1回からくり劇場	5月5日	59名
2	まっ茶茶わんをつくろう ①製作	5月15・16日	27名
3	まっ茶茶わんをつくろう ②喫茶	6月13日	13名
4	古代の弓づくり	6月27日	6名
5	カラムシから布をつくろう ①繊維とり出し	7月3日	15名
6	カラムシから布をつくろう ②糸づくり	7月17日	14名
7	家族で縄文土器をつくろう ①製作	7月24日	12名
8	古代の染色にちょうせん	8月8日	17名
9	家族で縄文土器をつくろう ②野焼き	8月21日	12名
10	カラムシから布をつくろう ③アンギン編み	9月4日	15名
11	第2回からくり劇場	9月23日	8名
12	古代の鍛冶体験	10月9日	9名
13	古代の印章づくり	10月23日	7名
14	家族で土偶・土面をつくろう ①製作	11月6日	14名
15	家族で土偶・土面をつくろう ②野焼き	11月27日	11名
16	第3回からくり劇場	12月19日	60名
17	家族で門松をつくろう	12月23日	32名
18	縄文土器づくり上級編 ①形づくり	1月22日	15名
19	縄文土器づくり上級編 ②文様付け	1月29日	15名
20	第4回からくり劇場	1月30日	96名
21	古銭づくり	2月26日	24名



家族で土偶・土面をつくろう

2) まほろんイベント

当館の業務や文化財に関心を持ってもらうことで、新たな地域・年齢層を開拓し、さらなる来館者増を目指すために実施した。

①ゴールデンウィークまほろんまつり

火おこしに挑戦、バックヤードツアー、弓矢体験、カルメ焼き体験、植物観察ツアー、昔の遊びなどを実施した。

②まほろん夏まつり

古代3種（火おこし、弓矢、やり投げ）競技や、すり染め、かき氷づくりなどを実施した。

③まほろんを描こう

まほろんの様々な施設や展示物を題材として、参加者に絵画を描いてもらった。作品は来館者の投票により優秀作品を決定し、表彰した。

④餅つき大会

県南地区の餅つき唄にあわせて千本杵による餅つき体験を行った。体験者には試食用の餅を振る舞った。また、餅つき行事のビデオ上映会やミニ展示、昭和の遊びも行った。



餅つき大会

なお、当日は「アクアマリンから移動水族館がやってくる！」も実施された。

⑤第7回双六大会

盤双六を用いて、トーナメント方式の大会を実施した。



第7回双六大会

⑥まほろん冬まつり

火おこしタイムトライアル、土器づくり、昔の遊び、毬杖体験、カルメ焼き体験、紙兜づくりなどを実施した。併せて、「福島県立図書館の移動図書館あづま号がやって来る！」も実施された。

まほろんイベント実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	GWまほろんまつり	5月1～5日	1,591名
2	まほろん夏まつり	8月1日	121名
4	まほろんを描こう	9月18～20日	51名
5	餅つき大会	12月5日	731名
6	第7回双六大会	1月10日	27名
7	まほろん冬まつり	2月20日	623名

3) まほろん森の塾

塾生（小学5・6年生、中学生から募集）が、年間を通じて昔の暮らし・技術について体験することで、自らが生きる力をわかりやすく、親しみやすく身につけることを目的として実施した。平成22年度は11名が登録し、「古代の生活を体験」をテーマに7回実施した。

まほろん森の塾実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	結団式、古代の畑・作物植え	5月22日	6名
2	鹿角アクセサリーづくり	6月19日	8名
3	古代の技術・遊び体験	7月12日	11名
4	お食事会	9月18日	7名
5	土偶づくり	10月16日	8名
6	土偶の野焼き	11月27日	8名
7	解団式	12月18日	7名

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とし、当館職員が会場となる施設へ出向して(ただし、「ネットでもほろん」を除く)、体験活動の指導あるいは補助を行う。体験可能なメニューは、勾玉づくり、火おこし体験、弓矢体験、土器づくりなど館内での体験学習に準じる。

以下、本事業の各プログラムの概要と平成22年度の成果について述べる。

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、学校の先生と当館職員が連携して授業を行う「連携コース」と、当館職員が主体となって活動を進める「まほろんコース」がある。平成22年度は、別掲の27校で実施した。

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子供クラブ」などを対象としたプログラム。本年度は、相馬市と郡山市、西郷村の3箇所で実施した。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象として、その地域で発掘された考古資料の展示や体験学習などを行うプログラム。本年度は、南相馬市における開催を予定していたが、東日本大震災の発生により中止となった。

4) ネットでもほろん

遠隔地の学校や障がいを持っているため来館での活動が困難な学校を対象としたプログラムで、当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行う。昨年度は申し込みがなかったが、今年度は1校で実施した。

「おでかけまほろん」実施状況

	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	参加者数
1	西会津町立尾野本小学校	6年、社会科	火おこし体験	4月21日	22名
2	伊達市立掛田小学校	6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験・土器さわり	4月23日	50名
3	郡山市立桑野小学校	6年、社会科	火おこし体験・土器さわり	4月28日	98名
4	猪苗代町立緑小学校	6年、社会科	火おこし体験・土器さわり	5月11日	11名
5	二本松市立原瀬小学校	5・6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験・弓矢体験	5月18日	21名
6	いわき市立上遠野小学校	6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験	6月1日	42名
7	いわき市立川部小学校	5・6年、社会科	火おこし体験・土器さわり	6月2日	34名
8	いわき市立好間第四小学校	5・6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	6月16日	17名
9	県立平養護学校	5・6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験	6月17日	4名
10	会津若松市立門田小学校	6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験・土器さわり	6月23日	99名
11	西郷村立川谷中学校	全校、社会科	勾玉づくり	7月1日	23名
12	田村市立菅谷小学校	6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	7月6日	19名
13	いわき市立小白井小・中学校	全校、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	7月7日	12名
14	いわき市立川前小・中学校	全校、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	7月14日	12名
15	伊達市立月館小学校	5・6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり・毬杖(5年のみ)	8月31日	62名
16	田村市立船引小学校	6年、社会科	勾玉づくり・弓矢体験・土器さわり	9月7日	113名
17	郡山市立根本屋小学校	5・6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	9月9日	14名
18	会津若松市立湊小学校	6年、社会科	火おこし体験・土器さわり	9月16日	12名
19	昭和村立昭和小学校	5・6年、社会科	弓矢体験・土器さわり	9月28日	12名
20	田村市立要田小学校	6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	10月1日	18名
21	伊達市立大石小学校	5・6年、社会科	火おこし体験・土器さわり	10月14日	17名
22	伊達市立泉原小学校	5・6年、社会科	火おこし体験・土器さわり	10月14日	9名
23	喜多方市立高郷小学校	6年、社会科	火おこし体験	10月20日	16名
24	本宮市立本宮小学校	6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	11月10日	72名
25	須賀川市立稲田小学校	6年、社会科	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	11月16日	51名
26	塙町立塙小学校	6年、社会科	勾玉づくり	11月25日	51名
27	いわき市立久乃浜二小学校	5・6年、総合	火おこし体験・弓矢体験・土器さわり	12月14日	9名

「まほろん出前講座」実施状況

No.	団 体 名	年齢	体 験 内 容	実施日	参加者数
1	相馬市山上公民館	6～12歳	火おこし体験・土器さわり・弓矢体験	7月27日	25名
2	郡山市片平公民館	60歳以上	火おこし体験・土器さわり・勾玉づくり	7月29日	13名
3	那須甲子青少年自然の家	5～15歳	火おこし体験・弓矢体験・ミニチュア土器づくり	3月31日	70名

「ネットでもほろん」実施状況

No.	団 体 名	年齢	体 験 内 容	実施日	参加者数
1	県立須賀川養護学校	12～17歳	土器・石器やレプリカを用いたネット授業	7月13日	9名



「ネットでもほろん」

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は46,550件で、月平均約3,879件となっている。年度ベースでは昨年度よりも1,866件減少している。

月別のアクセス件数を見ると、4,000件を超えたのが4～9月で、上半期のアクセスが多い。また、累計アクセス数は、12月の段階で400,000件を超えた。

ホームページのアクセス数一覧

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,320	369,260
5月	4,141	373,401
6月	4,563	377,964
7月	4,206	382,170
8月	4,081	386,251
9月	4,317	390,568
10月	3,790	394,358
11月	3,597	397,955
12月	3,281	401,236
1月	3,464	404,700
2月	3,538	408,238
3月	3,252	411,490
合計	46,550	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成22年度のアクセス数は、次表のとおり。データベースの年間アクセス数は427,934件で、これは過去最高だった昨年度(520,287件)に次ぐアクセス数である。なお、月平均アクセス数は約35,661件となっている。

その内訳を見ると、遺跡データベースと遺物データベースがそれぞれ170,000件、150,000件を超えており、特にアクセスの頻度が高い。

月別のアクセス件数を見ると、1・2・4月で40,000件を超えており、冬～春にかけてのアクセスが特に多い。

データベースのアクセス数一覧

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	107,507	80,640	14,485	9,072	3,310
5月	33,557	14,121	12,054	4,370	3,012
6月	25,091	9,003	9,611	3,747	2,730
7月	32,098	7,581	17,063	3,664	3,790
8月	24,122	6,174	13,540	1,379	3,029
9月	11,910	2,991	5,365	1,379	2,175
10月	21,661	5,025	11,825	1,932	2,879
11月	25,635	6,605	12,774	2,501	3,755
12月	30,087	6,789	13,514	6,436	3,348
1月	54,697	15,490	21,433	13,797	3,977
2月	41,648	16,777	14,672	5,612	4,587
3月	19,921	5,221	8,655	2,911	3,134
合計	427,934	176,417	154,991	56,800	39,726

(2) データの入力

平成21年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータ、及び、当館で作成した「文献データベース」、当館で撮影した遺物写真の入力を行った。新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は7,836件となっている。

なお、データの見直しを進めたところ、遺跡(基本データ)で1件、遺跡(調査台帳)で7件、データの重複が見つかったため削除した。

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計
遺跡(基本データ)	13	1	13,791
遺跡(調査台帳)	58	7	3,901
遺物	3,462		232,867
遺物写真	1,482		12,436
写真	800		48,513
文献	2,021		15,667
合計	7,836	8	327,175

3. まほろん通信の発行

4月15日、7月1日、10月1日、1月14日の4回、各4,000部を発行した。概要は、次のとおりとなっている。

(1) まほろん通信 vol.36 (4月15日発行)

- ・イベント「まほろん冬まつり」
- ・イベント「毬杖大会」
- ・企画展示案内(まほろん収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之八 宇多郡」)
- ・今年度の行事予定
- ・文化財研修のご案内(4～6月の研修)
- ・平成21年度の入館者数
- ・まほろんからのお知らせ(屋外のベンチがリニューアル)

(2) まほろん通信 vol.37 (7月1日発行)

- ・1学期のおでかけまほろん
- ・実技講座「まっ茶茶わんをつくろう」
- ・夏のまほろん(まほろんイベント「まほろん夏まつり」)
- ・企画展示案内(ふくしま森林文化企画展「原始・古代の森と人との共生」)
- ・まほろん研究広場(居宅と火葬墓)
- ・文化財研修のご案内(7～9月の研修)
- ・シリーズ収蔵品紹介10(桜町遺跡の弥生土器)
- ・まほろんからのお知らせ(夏休みは無休です)

(3) まほろん通信 vol.38 (10月1日発行)

- ・「教職員発掘調査体験研修」の様子
- ・体験学習(実技講座「カラムシから布をつくろう」)
- ・実技講座「家族で縄文土器をつくろう」・実技講座「古代の染色にちょうせん」)
- ・出前講座の様子
- ・森林文化講演会の様子
- ・企画展示案内(ふくしま里帰り展「ふくしまの土偶」)
- ・文化財研修のご案内(10～12月の研修)
- ・シリーズ収蔵品紹介11(関林A遺跡出土の瓦)
- ・まほろんからのお知らせ(土偶や土面がつくれます)

(4) まほろん通信 vol.39 (1月14日発行)

- ・「古代の鍛冶体験」の様子
- ・体験学習(「まほろん森の塾」・実技講座「家族で土偶・土面をつくろう」・実技講座「古代の印章づくり」)
- ・企画展示案内(指定文化財展「ふくしまの重

要文化財Ⅷ 関和久官衙遺跡」)

- ・シリーズ復元展示(中田横穴墓出土馬鈴の復元)
- ・研修だより(考古学基礎講座Ⅳ「福島県考古学研究史—中通り—」)
- ・本年度のおでかけまほろん
- ・まほろんからのお知らせ(2・3月のまほろんイベント)

6 文化財に関する研修

1. 研修実施の概要

平成22年度の研修は、期日指定の基礎研修10回、専門研修6回と、臨時に館内や館外で行う特別研修5回の合計21回を実施した。平成22年度に研修を実施した日数は延べ32日、研修の参加者は449名である。受講者数は昨年度より94名減少した。

2. 研修実施状況

平成22年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かったのは、市町村等の文化財保護担当職員で212名、全体の約半数の49%を占めている。教職員の参加者は35名で8%、文化財関係の市民ボランティアは40名で9%である。その他、考古学を専攻していると思われる学生の参加が52名で12%、一般人が94名で22%となっている。今年度は文化財に携わる市町村職員の参加が昨年度に比べやや少なかった。その代わり、一般人の研修への参加が少しずつ多くなってきている。文化財への社会の関心が高まりつつあることが窺える。

基礎研修は、文化財に関する学問の基礎を学ぶ研修で、別表に示したとおり考古学基礎講座などを10回実施した。

「考古学基礎講座」は、文化財や考古学に関する基礎知識を学ぶ講座である。考古学基礎講座Ⅰは、まほろんで収蔵する考古学資料の中で、基準になる資料をもとに、それぞれの時代の基礎知識を学ぶ講座である。今回は当館職員が、まほろんで収蔵している江戸時代や明治時代の陶磁器を取り上げ、その産地や、移り変わりをわかりやすく講義した。「考古学基礎講座

Ⅱ」は、「福島の宝物」をシリーズテーマとし、県内出土の考古資料をもとに、考古学の基礎知識を学ぶ講座である。今回は、福島県立博物館の田中敏氏を迎え、弥生時代前期に県内でも点々とその存在が知られている「遠賀川系土器」について、県内出土資料をもとに、その出土分布や意義について、詳しく講義していただいた。「考古学基礎講座Ⅲ」は、昨年から「衣食住の

歴史」をシリーズテーマとしており、今回は「食の歴史」をテーマとして取り上げた。日本の食事の形態が確率された江戸時代の「食」について、絵画や食事に用いられた陶磁器などの考古資料を用いて、当館職員がわかりやすく解説した。「考古学基礎講座Ⅳ」は「福島県考古学の研究史」をシリーズテーマとしている。今回は福島県中通り地方の考古学研究史を、昭和 40



考古学基礎講座Ⅱ



考古学基礎講座Ⅳ

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場 所
基礎 研修	考古学基礎講座Ⅰ「まほろん収蔵の考古基準資料(近世・近代陶磁器)」	芳賀英一(当館職員)	5月15日	15名	館内
	考古学基礎講座Ⅱ「福島県の宝物(弥生時代前期の遠賀川系土器)」	田中敏(福島県立博物館専門学芸員)	6月19日	20名	館内
	考古学基礎講座Ⅲ「衣食住の歴史(食)」	高橋信一(当館職員)	7月10日	14名	館内
	教職員発掘調査体験研修	佐々木慎一(当館職員)	8月4日～6日	24名	喜多方市
	体験学習支援研修Ⅰ「古代の染色」	大山孝正(当館職員)	8月28日	6名	館内
	調査技術基礎研修「石造物の記録方法」	高橋信一(当館職員)	9月11日	11名	館内
	考古学基礎講座Ⅳ「福島県考古学の研究史(中通り)東北道・新幹線調査の頃」	木本元治(国見町教育委員会生涯学習課専門員)	10月2日	12名	館内
	体験学習支援研修Ⅱ「土偶づくり」	轡田克史(当館職員)	10月16日	4名	館内
	文献資料と地方史研究「相馬地方の塩づくり」	山田英明(当館職員)	1月15日	10名	館内
専門 研修	無形の文化財基礎研修「風俗慣習(祭り・行事)」	大山孝正(当館職員)	2月5日	25名	館内
	文化財保護指導者研修会	高橋充(福島県立博物館主任学芸員)	7月22日～23日	138名	会津若松市・会津美里町
	考古学と関連科学「縄文時代の環境変化」	吉川昌伸(古代の森研究舎代表)	7月31日	8名	館内
	専門考古学講座Ⅰ「多賀城政庁跡研究の新知見」	古川一明(宮城県多賀城跡調査研究所上席主任研究員)	9月25日	30名	館内
	専門考古学講座Ⅱ「福島県の土偶」	山内幹夫(当事業団歴史資料課長)	11月13日	25名	館内
	土器復元研修「化学素材による土器の修復」	小林啓(当事業団遺跡調査部職員)	11月20日	11名	館内
	専門考古学講座Ⅲ「土師器の見方(古墳時代前期)」	青山博樹(当事業団遺跡調査部職員)	12月11日	16名	館内
特別 研修	臨時館内研修	当館職員	臨時的	48名	館内
	職員派遣研修	当館職員	臨時的	16名	館外

年代に東北自動車道や東北新幹線など、多くの大規模開発に伴う埋蔵文化財調査に従事した国見町教育委員会の木本元治氏を講師に招き、当時の調査の様子や学会の動向などを講義いただいた。「体験学習支援研修」は、文化財を学校などで行う体験学習に生かす方法を学ぶ研修である。「体験学習支援研修Ⅰ」は、「タデアイ」の葉を布にすりつけて行う、最も原始的な染色方法を、実地に学ぶ研修である。「体験学習支援研修Ⅱ」は、「ふくしま里帰り展」にあわせて企画した土偶の作り方の研修である。2回の「体験学習支援研修」の講師は当館職員が務めた。「教職員発掘調査体験研修」は、発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修である。主に受講対象者を教職員の人人々しているため、学校が夏休みの期間に開催している。今年度は喜多方市の小田高原遺跡の発掘調査現場を研修会場に、遺構の調査方法や記録方法などについて学んだ。講師は当館職員が務めた。「調査技術基礎研修」は、文化財の調査技術に関する基礎知識を学ぶ研修で、今回は当館職員が講師となり、「石造物の記録方法」をテーマとして実施した。板碑の拓本作成を中心に石造物の記録方法を学んだ。「文献資料と地方史研修」は、文献資料から見た地方の歴史を学ぶ研修である。今回は「相馬地方の塩づくり」について、江戸時代の古文書を紐解きながら、相馬地方の塩田経営を研修した。講師は当館職員が務めた。無形の文化財基礎研修では、当館職員が民俗芸能や民俗技術の調査方法などに関して講義した。今回は県内の祭りや年中行事を取り



教職員発掘調査体験研修



考古学と関連科学

上げた。

専門研修は、専門考古学講座などを6回実施した。

「専門考古学講座」は、文化財や考古学の専門的知識を深める講座である。「専門考古学講座Ⅰ」は、宮城県多賀城跡調査研究所の古川一明氏をお招きして、最近の多賀城政庁跡の研究の進展を「多賀城政庁跡研究の新知見」と題した講義を行った。「専門考古学講座Ⅱ」は、企画展とタイアップして、当事業団歴史資料課職員が「福島県の土偶」について講義した。「専門考古学講座Ⅲ」は、「土師器の見方」をテーマにした。今回は当事業団遺跡調査部職員が、古墳時代前期の土師器の観察の視点や編年研究について講義を行った。「考古学と関連科学」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。今回のテーマは、「縄文時代の環境変化」で、古代の森研究舎代表の吉川昌伸氏を講師に迎え、遺跡から出土した花粉や種子などの植物遺体をとおした見た縄文時代の植生変化について学んだ。「土器復元研修」は、石膏だけでなく、いろいろな化学素材を用いた土器修復法を学んだ。講師は当事業団遺跡調査部職員が務めた。「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護文審議委員を対象として毎年会場を変えて行う研修会である。今回は会津若松市と会津美里町の施設や遺跡を会場として、福島県立博物館主任学芸員の高橋充氏の講演や史跡の見学を実施した。

特別研修は、臨時館内研修では「博物館学外実習」や、「土師器の実測方法」など、4科

目 12 日間実施した。「臨時館内研修」は、古殿町教育委員会の依頼で、土器拓本の取り方の実習を行った。



土器復元研修



文化財保護指導者研修会

7 文化財に関する調査研究

1. 復元品製作研究事業

(1) 研究の目的

復元品製作研究事業は、遺跡から出土した遺物や検出した遺構を対象とし、古代の技術や素材を検討し、今に甦らせるものである。

平成 17 年度から「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をテーマとして、いわき市中田横穴出土馬具類を復元製作している。

この復元品製作研究では、開館時に復元した白河市笹内 37 号横穴墓から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県の古墳時代金工技術の地域差から、その社会背景に迫り、さらには古代の石背・石城国の設立の謎を解明すること

を目的とする。

(2) 製作する馬具類

いわき市中田横穴出土の馬具類の内、平成 17 年度から平成 21 年度までに復元製作した馬具類は、金銅装木製鞍、尻繫、金銅装鐙（三角錐形壺鐙）、障泥、馬鈴である。これらについては、その都度、公開するとともに、経過を年報 2006・2007・2008・2009・2010 に紹介してきた。

平成 22・23 年度は、胸繫と面繫を復元製作する。

(3) 平成 22 年度の経過

平成 22 年度は胸繫のみを製作する予定であったが、次年度に製作する面繫と一連の物であることから、両者の金具類のレイアウトに関する検討会を 2 回、胸繫のみのレイアウトに関する検討会を 1 回実施した。

9 月 14 日：第 1 回検討会（於：いわき市考古資料館、出席者：馬目順一氏・松本友之氏・木幡成雄氏・鈴木勉氏）

胸繫及び面繫のレイアウト素案を提示し、帯金具・帯先金具の原資料を観察しながら、胸繫及び面繫のレイアウトを検討した。

11 月 30 日：第 2 回検討会（於：まほろん、出席者：馬目順一氏・松本友之氏・渡邊一雄氏・鈴木勉氏）

胸繫及び面繫のレイアウトについて、馬の模型にサンプルを配して検討した。おおよそのレイアウトが決定し、昨年度製作した馬鈴の内、中鈴 1 個と小鈴 4 個は胸繫の帯金具・貝製飾金具から紐でぶら下げることにした。

この検討会を受けて、両者の設計図を作成し、当初予定の胸繫の他、次年度製作予定の面繫の金具の一部についても製作することにした。

平成 23 年 2 月 1 日：第 3 回検討会（於：まほろん、出席者：鈴木勉氏）

胸繫の帯金具及び貝製飾金具の取り付け位置と鉸具の位置の最終確認を行った。

(4) 復元した資料

胸繫は金銅製帯金具 3 点、金銅製帯先金具 2 点、貝製飾金具 2 点、鉄製鉸具 2 点を復元製作

し、それぞれ、革帯に取り付けた。さらに、金銅製帯金具と貝製飾金具の下に紐で昨年度製作の中鈴と小鈴をぶら下げ、隣り合う鈴の間にはふさを配してみた。

帯金具と帯先金具の鉾は、帯金具の2点が金張り、他は銀張りで、貝製飾金具はイモガイを加工して台座とし、銀張りした宝珠の鉄芯を天頂部に通した。

面繫の金具は、鉄地銀張り帯金具2点、金銅製帯先金具5点、鉄製鉸具2点を復元製作した。

帯金具の鉾は宝珠形で銀張りとし、帯先金具の鉾は、1点が金張りで、他は銀張りとした。



完成した胸繫



完成した面繫部品

(5) 今後の予定

平成23年度は面繫を復元製作し、平成17年度から始めた馬具にかかる復元品製作研究は完了する予定である。その後、復元製作した中田横穴出土の馬具類全てを展示公開することと

する。

2. 研究紀要2010の発行

当館職員の調査研究成果をまとめ、発行した(6論文)

—研究論考—

- ・まほろん4号炉による製鉄操業
—平成21年度イベント「古代の鉄づくり」報告—(能登谷宣康)
- ・宇多・行方郡の鉄生産と近江(菅原祥夫)
- ・カマドを有する竪穴住居跡の床面に埋め込まれた遺物(丹治篤嘉)
- ・白河市筑内古墳群の再検討～横穴墓造営の変遷に関する一考察～(高橋信一)
- ・福島県文化財センター白河館収蔵土偶の出土状況について(轡田克史)
- ・白河市佐平林遺跡出土の瓦について(吉野滋夫)

8 ボランティアの運営

1. 募集

第2期の指定管理者選定の後、次の①～③の条件のもと、新しい「まほろんボランティア」の募集を行った。(募集期間：平成21年2月10日～3月5日)

①平成21年4月1日現在で18歳以上(高校生は除く)、②無償で活動できる方(保険料は当館負担)、③毎月2日間以上(1日2時間程度)活動できる方

2. 登録

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」とする。

募集・選考を経て、現在43名の登録となっている。

まほろんボランティア登録状況

平成22年度登録者数	43名 (男27名・女16歳)
内訳	
1. 最年長 83歳	
2. 最年少 21歳	
3. 平均年齢 64歳(男64歳・女63歳)	

3. 活動内容

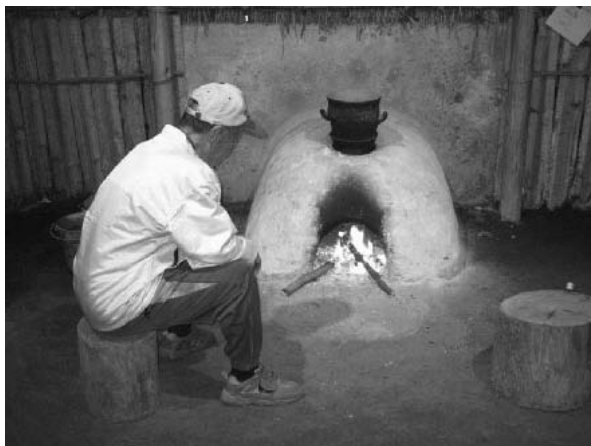
主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(餅つき大会等)の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- アングイン編み

4. 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に4名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、4月10日(土)、10月3日(日)にまほろんボランティア連絡会を開催した。



ボランティア活動(奈良時代の家の火焚き管理)

9 その他

1. 年報2010の発行

当館の平成21年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、

館長の諮問機関として、年2回開催している。

なお、平成22年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：前弘前大学教授、新任
- ・日下部善巳：前二本松市立岳下小学校長、新任
- ・平出美穂子：郡山女子大学准教授、再任
- ・太田 雅信：西白河小中学校長連合協議会長、新任
- ・和知 延：白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・佐藤 修：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任

(1) 第1回運営協議会

日時：平成22年9月4日(土)

場所：講堂

協議内容

- ・福島県文化財センター白河館の概要
- ・平成21年度白河館の事業について
- ・平成22年度白河館の事業について
- ・平成21年度来館者アンケートの結果について
- ・その他

(2) 第2回運営委協議会

以下により実施する予定だったが、前日の3月11日「東日本大震災」発生により、開催を中止した。

日時：平成23年3月12日(土)

場所：講堂

協議内容

- ・平成22年度白河館の運営状況について
- ・平成23年度白河館の事業計画について
- ・その他

3. 緊急雇用創出基金事業

緊急雇用創出基金事業により、当館収蔵の遺物等の写真撮影を実施した。撮影した発掘調査事業名及び撮影カット数は、別表のとおり。

緊急雇用創出基金事業撮影データ目録

事業名	撮影カット数
母畑地区遺跡発掘調査報告	4,912
矢吹地区遺跡発掘調査報告	631
国営会津農業水利事業関連遺跡発掘調査報告	326
真野ダム関連遺跡発掘調査報告	1,281
三春ダム関連遺跡発掘調査報告	977
摺上川ダム遺跡発掘調査報告	897
合 計	9,024

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段 86 番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：財団法人福島県文化振興事業団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51 m²
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955 m²
体験学習館 133.627 m²
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815 m²
(本館 2,400.046 m²、収蔵庫棟 2,999.769 m²)
体験学習館 92.71 m²
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91 台 (うち身障者用 4 台)
 - ②大型車駐車場 10 台
 - ③臨時駐車場 40 台
 - ④職員駐車場 21 台
 - ⑤駐輪場 28 台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧 6.6KV 1 回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発 50KVA
 - ・非常照明設備・誘導灯設備：
 - 建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力 240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：
 - 電子交換外線 4 回線 (ISDN) 内線 55 回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔

発停制御及び計測監視

2. 空調設備

・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷 HP マルチパッケージ方式 (一部空冷 HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ + 電気ヒーター + アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジン HPP) 方式

・熱源：都市ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流 (最終桝でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流、
- ・雨水；側溝放流
- ・多目的便所：屋内 1 箇所 (男女別)、屋外 1 箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

◎工期 着工：平成11年7月12日

完成：平成12年10月16日

◎総建設費 3,300,625 千円

・内訳	建築費	2,690,848 千円
	公有財産購入費	222,095 千円
	その他の経費	387,682 千円

白河館平面図

白河館配置図

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	積層棚2層目部分 2,263
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・ブ ロムナード キ ャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。
(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。
(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。
一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
二 白河館の維持管理に関すること。
三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わな

いこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者
(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

福島県文化財センター白河館

年報 2011

平成 23 年 7 月 7 日発行

編集・発行 （財）福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 白河市白坂一里段 86

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
